



Juju Information Vol.76

Juju(こと、野田樹潤)
スーパーフォーミュラ 今年の最終戦 第8-9ラウンド 鈴鹿サーキット
今季自己最高の12位
シリーズ全9戦で完走を果たし、今シーズンのレースを終了

Juju (こと野田樹潤。NODAレーシング所属)は、11月9日(土)-10日(日)、「鈴鹿サーキット」で開催された SUPER FORMULA 第8-9ラウンド・今季最終戦に出場しました。

スーパーフォーミュラ シリーズ発足以来、過去最高となる 20 万人超 (主催者発表) の来場者を迎えた今季最終ラウンド。開幕戦以来の鈴鹿サーキットでのレースです。9日(土)第8ラウンドは、出走 21 台中 6 台が途中リタイヤとなる荒れたレース展開となりました。Juju は一時入賞圏内の 10 位を走行、ポイント獲得までもう一步に迫る今季自己最高位の 12 位。



10日(日)の第9ラウンドは、SC(セーフティーカー)導入なしのフルディスタンスをスタートからフィニッシュまで前後の車両とポジション争いを繰り広げながら全力で走り切り、20位。Jujuは、大きな成長を実感させるレースで、スーパーフォーミュラ初参戦ながらシリーズ全レースで完走を果たし、今季を締めくくりました。



Jujuは、「1年間、応援ありがとうございました。振り返れば楽しいこと、苦しいこと、いろいろありました。鈴鹿サーキットでのシーズン開幕戦は、圧倒的に経験のない所からのスタートでした。参戦当初は、トップ選手と同一周回で完走することが目標だったところから、4戦目あたりから少しずつ、レース後続ではあったものの、エンジニアと一緒にいかにポジションアップするかを考える作戦を立てられるようになり、そして最後に開幕戦と同じ場所に戻って来た鈴鹿では、先輩ドライバーたちとしっかり渡り合えるようになりました。

レース後に先輩ドライバーや関係者の皆さんから、「やばいよ Juju 速えーよ」「Juju やるねえ」とか、「レ



「速かったね」と声をかけて下さってとても嬉しかったです。成長できた貴重な一年を経験させて頂きました。」と、1年のレースを振り返りました。

9日(土)の第8ラウンドは、予選20番手からのスタート。レースは、他のドライバーの接触などのアクシデントにより再三に渡りセーフティーカーが導入され、レースが中断するという荒れた展開となりました。Jujuは、途中、2度におよぶ目前で起こったアクシデントにも冷静に対応して巻き込まれることもなく、一時は入賞圏内の10位を走行。中盤には岩佐歩夢選手との攻防、レース中断から再開され終盤に差し掛かる23周目のシケインで、元F1ドライバーである小林可夢偉選手とのバトルなど、見せ場を作りました。

セーフティーカーが導入された中でフレッシュタイヤに替えた小林選手が、Jujuを抜きにかかります。Jujuは、タイヤの状態が苦しい中で、ここは、一歩も引かずに抑えきります。さらに、ファイナルラップでも同じシケインで仕掛けてきた小林選手を果敢に抑えきります。

Jujuは、このバトルに、「その事(バトル)でいろいろ言われているようですが、シケインでは一度のみならず、ファイナルラップでも押し出され、こちらが(コースを逸れて)グリーンに逃げなければ確実に接触してました。」とコメント。レース直後に小林選手に歩み寄って言葉を交わしたことには、「文句を言いに行つたつもりではないんです。ただ2回押し出されたのは、ちょっと行き過ぎではないかですか、とお話したかったんです。そのうえで、尊敬するF1ドライバーとバトルができて光栄でしたと伝えようと思っていました。でも、きちんとお話しする前に”何だよ”って怒られちゃったので、キチンと思いを伝えられませんでした。」と、残念そうな表情も。



2024 SUPER FORMULA Round9-9 Suzuka circuit
Credit: juju.com

翌10日(日)の今季最終戦は、セーフティーカーが導入されるようなレース中断もなく、Jujuは、フルディスタンスをスタートから最終ラップまでブッシュして走り切りました。レース中盤からは、数周到わたって同じルーキードライバーの平良響選手との接近戦。そして、経験のある小高一斗選手と最終ラップまで順位争いを繰り広げ、レース中のベストタイムも優勝者と0.4秒差の素晴らしいタイムを記録し20位でフィニッシュ。31周のレースを終えて、Jujuは、「あと更に20周くらい走りたかったです。」と、笑顔で語りました。

Jujuは、「スーパーフォーミュラのレースが面白く感じるようになって来たところでシーズン終了となり、やや物足りない感じです。シリーズ全戦を完走できたことには、レース関係者の方々から”簡単な事ではない”と言われました。兎に角、普段の練習走行が許されていないスーパーフォーミュラは、私にとってはすべての本番レースが練習でもあった訳です。そう言う意味では1周でも多く走って成長する事が必須でした。」
「毎戦、精一杯走ることができて良かったです。スポンサー、ファンの皆さん最後まで応援してくれてありがとうございました。」と、お礼とともにコメントしました。

来季のレース活動に関しては、「(今年参戦したチーム)TGMは、来年はSUPER FORMULAへはエントリーしないと、最近、聞きました。乗る所(チーム)がなくなると、来季はレース活動ができるかどうかわかりません。でも、来年またどこかで皆さんにお会いできたら嬉しいです。」と、不安を感じさせない表情を見せていました。

※来月12月5日(木)には、NODAレーシングでは、ファンミーティングとスポンサー様への報告会を開催します。Jujuは、「サーキットでは、忙しくてファンやスポンサーの皆さんと交流する時間が殆ど取れませんでした。この機会に参加して下さる皆さんと楽しい時間を共有できたらと思っています。レアなプレゼント企画や、限定グッズも用意されるようですので、楽しみにしてください。」と話しました。是非、ご参加ください。

この件に関するお問い合わせ先：NODA RACING 広報担当 石川
e-mail t.ishikawa@noda-racing-academy.org Mobile 090-8940-1683
岡山・美作事務局 担当 須田
Tel.0868-75-3283/Mob.090-5128-3064 mail k.suda@noda-racing-consultans.biz